

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	会社の理念は、毎日の朝礼時には必ず唱和し、各スタッフが理解し浸透できるようにしている。又、事業所独自の理念として、感謝・人を思い、人と笑い、人と泣き、人に寄り添う、と言う内容を掲げ日々のケアの中で、実践している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の朝礼の中で、会社と事業所独自の理念を唱和し、又会議の中でも唱和し、協議する事で各スタッフに理解、浸透できるように努めている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	2ヶ月毎に開催している、運営推進会議の中において、ご家族にも参加していただき、地域の方々との意見交換を通して、現状と今後の課題を把握すると共に、地域に参加、活用できるものは、実行に運んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の散歩の中で、地域の方との挨拶を必ず交わし、ホームの前に広がる畑で出来る野菜は、開所当時から、ご好意で分けていただき、親睦を深めている。又、近所のお子様の幼稚園の通学路でもあることから、そのご家族とも顔馴染みになっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の付き合いにおいて、行事の案内を頂き、入居者の方々の状態に合わせ、無理のないように、参加するようにしている。春からは、地域の公園で週1回行われている、ゲートボールにも参加している。食事会・夏祭り・敬老会などの季節の行事以外でも、廃品回収にもご近所同様に参加させていただいている。		地域の子供たちとの交流が少ないので、ホームの行事に招待したり、触れ合いを持てる行事に参加したいと考えている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	会議や日常のケアの中で地域貢献について、話し合い、意見を出すように努めている。		話し合う機会を作っているが、実際に実現できていない為、実現できるように、話し合いの機会を増やし、努めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の自己評価は閲覧できるように、見やすい場所に保管している。具体的に、改善点を掲げ、実行できるように取り組んでいる。		具体的に実行できるように取り組んではいるが、スタッフ全員に浸透できていると必ずしも言えないので、さらに理解し、改善できるように、努めていきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	貴重なご意見を頂く度に、ホーム会議で伝達し、意見を反映させてサービスの向上に繋げている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の動向や市での取り組みは、詳細を確認するようにしている。又、日頃より相談に乗っていただいている。当市の広報誌に必ず目通し、行事をチェックし参加を検討している。		地域の行事には参加できているが、市の行事にも無理なく参加できるように、計画していきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現段階では、該当される方はいないが、半年に1度の割合で、学習する機会を設け、支援方法を指導していきたい。		今後、必要となる方のことを考えて、勉強会を通して、より理解を深めていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃のケアの中で、現状を把握し虐待にならないように、カンファレンスで話し合っている。言葉遣いや対応の中で、見過ごすことの無いように、意識するように、指導している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書の読みあわせを必ず行い、確認をするようにしている。分かりにくい内容に関しては、再度細かく説明を行うようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議を通して、意見や不満を吸い上げ、早期解決し反映に努めている。又、ご利用者の直接の意見も早期解決になるように、運営に反映できるようにしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	日常の来訪時には、生活の様子や、身体の状態を細かに報告させていただき、月1回の写真付きの通信では、月単位の報告と次の月での取り組んでいきたい事の報告をしている。		分かりやすく、今よりも充実した通信紙に今後もしていきたいと考えている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会を通して、ご意見を吸い上げることが出来るように、努めている。問題点や疑問点に関しては、早急にお答えできるようにしている。		より多くの意見を反映する為に、ご意見箱の設置をしているが、全て片に広く知られていない為、活用していただけるように、お伝えしていきたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のケアをする中での話し合いを行っている。意見や提案がまとまりにくい時は会議やカンファレンスで再度確認し、反映するように努めている。個人面談を定期的には出来ていないことがあるので、見直しをし、意見の調整と指導をするようにしていきたい。		個人面談を定期的に行い、広く意見を反映できるようにして、良いホーム作りに努めたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者の生活状況に合わせ、柔軟に対応できるように、シフトの調整を行っている。人員不足が解消したこともあり、スタッフ全員が協力しながら、対応できるように、指導していきたい。		人員が揃ったばかりなので、指導を確実に行いたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を保つ為に、ユニット毎の入れ替えは、極力しないようにしている。いつも変わらない、馴染みのケアが出来るように、シフトを組む時にも考慮している。個人のやむを得ない離職もあるが、大きな影響がないように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>年齢・性別の差別なく幅広い採用を心がけている。又、就業においても、職員の生活状況も考慮し、無理のないように働ける環境にしている。スタッフ全員の能力が伸びるように、指導している。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>各職員に人権について学習する機会を設け、各自の自己啓発について、考え指導できる環境作りを目指している。日常生活の中で、入居者の方々が、常に平等で人権が尊重されるように取り組んでいる。</p>		<p>人権・啓発運動は定期的に勉強会を開き、気をつけていきたい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>全職員には日々の目標を持って仕事をするように指導を行っている。又、より良いケアを目指す為に、社内研修のみならず、行政が実施する研修や、社外研修に参加するように声をかけ、その環境作りに努めている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の交流会に参加し、ネットワーク作りをしながら様々な情報を交換を行っている。関連施設のみならず、異なる施設にも赴き、サービスの質の向上の参考にしている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員がゆとりを持って休憩を取れるように、シフトを無理なく編成し、休憩室を完備し、ストレスの軽減に努めている。又、定期的にスタッフ同士の食事会も開き、日頃の悩みや相談を受けている。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スタッフ個々の能力を把握し、シフトの人員配置を行っている。能力を把握することにより定期的に面談を行い、適切なアドバイスをすることにより、各自が向上心を持って働けるように努めている。自己啓発活動にも取り組み、仕事との両立が出来るように配慮している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人との信頼関係を築く上で、寄り添い、話しを傾聴する機会を持つことで、不安の解消やご希望に添えるように調整を行い、早期の実現を目指している。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族からの相談事があれば、早急に解決できるように努め、近況報告も機会があるごとにお伝えし、ご本人にとってよい方向に向かうように、ご意見を頂いたり、こちら側から提案させていただくこともある。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、第一に必要とする支援を見極め、多方面に渡る情報収集し出来る限りの対応を行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人様が納得のいくサービスを利用していただく為に、ご家族の協力はもちろんの事、スタッフとの連携を図りながら、少しずつ馴染みながらのサービスが提供できるように努めている。又、特に初期の段階において、ご家族との連絡相談は蜜に行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご本人様の出来る事と、出来ない事を見極め、お一人お一人が役割を持って自分らしく生活していただけるように努めている。又、日頃から喜怒哀楽を共にして、ご本人様の気持ちに寄り添い共感できる姿勢を持つようにして、支えあう関係を築いて行けるように、スタッフの教育も行っている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ詳細をお伝えできるように、蜜に連絡を取り、ご家族の気持ちや意見を尊重するように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃のご本人の様子を話す事で、ご家族の気持ちをご本人へ向くように努めている。その中でより良い関係が築いていけると考えている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の会話に寄り添い、会話の中で馴染みの関係を把握するように努め、関係が途切れないように望みが叶うように、支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、時にはスタッフが介入することにより、より良い関係を築けるように支援している。食事などの座席の配置やレクレーションを行う時も、孤立しないように共に笑いながら、より親しく馴染みの関係になれるように、関わり合い支え合えるように努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病院などの機関をとおして、情報を向うようにしている。馴染みの職員がお見舞いに伺い、関係を断ち切ることのないような、継続的な関わりを持っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人にとって最善の方法を選ぶように、一人一人の言動に寄り添い、共感する中で、その方の意向の把握をする。次にご家族の意向を把握し、それが可能でない場合はケアカンファレンスを開き、意見を集め本人本位に検討している。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の生活歴や生活環境の把握をし、食事や排泄、入浴などの日常生活において、ご本人の希望に添えるように、最優先して努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプランに基づいて、ご本人に無理のないように1日の流れを組み立て、出来る限りの自立支援とリハビリ要素を加え、支援するように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃のケアの中で出てきた課題を話し合い集約し、ケアカンファで意見を持ち寄り、情報の共有を図るように努めている。ご本人はもちろんの事、ご家族の意見を反映する事により、より良い計画作成が行われていると考えられる。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間ごとの見直しは行っている。必要に応じて、臨時のカンファレンス等も開き、ご本人、ご家族、必要な関係者とも話し合い、細かな変更事項を確認し現状に即した計画の見直しを行っている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別には、介護記録がある。又、ケアプランに反映できるようにしている。情報の共有のために、細かい情報は、管理日誌1本にまとめている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人様や、ご家族の状況に応じて、規模は小さいながらも、柔軟な対応が出来るように、ご本人の意見はもちろんの事、ご家族の希望に沿うように、環境作りや、支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議うを通じて、地域、行政の情報を活かし、文化面ではボランティアを募り、演芸等を実施し楽しんで頂いている。		消防とは、避難訓練などを通じて、協力しながら支援を頂いているが、地域にある警察との関わりは殆どない為、緊急時のことを考え、広く交流を図りたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域支援センターとは出来る限り、情報を頂いたり、当方より情報を流すなど、相談するようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご本人の意向や必要性に応じて、総合的に考えて地域包括支援センターと協働している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの必要性に応じて、かかりつけ医との連携をとりつつ、ご家族の意向に沿った医療連携を確保し、適切な医療を受けられるように支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者の方の状態に合わせて、専門医の必要性を感じる方に関しては、ご家族の方に相談をさせて頂き、その上で紹介したり、往診を依頼している。又、状態や状況に合わせ、主治医との連絡を直接取り、ご家族には相談・連絡を行っている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職との連携に関しては、必要に応じて主治医に相談し、そこから訪問看護を依頼し、気軽に相談しながら協働している。利用されない方に関しては、主治医に支援していただいている。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医を通して、入院可能な医療機関への入院となることが多い。病院関係者との連絡を定期的に行いながら、時にはお見舞いを兼ねて直接病院へ行き、関係者の話を聞きながら、ご本人の状態を把握しながら、主治医との連携を図りご家族の意向を聞きながら、早期退院に向けての準備が出来ていると思われる。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	可能な限りご本人の意向を聞き、難しいときは、ご家族やかかりつけ医との繰り返しの確認を行い、方針について話している。又、ケアに関してもスタッフ全員が方針と情報を共有し、努めている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	少しでもより良く暮らしていただけるように、かかりつけ医と密に相談しながら、当方の出来ることと、出来ないことを見極め、医療行為に変わる有効な方法を検討し、支援するように努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	転居決定の際、ご家族とホームスタッフとで十分な話し合いを行い、先方への確実な情報提供を行い、ご本人が気持ちよく移り住むことができ、ダメージ最小限に防げるように支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心やプライバシーを損ねることの無いように、言葉掛けや対応に努め、利用者個人の申し送り事項や記録、個人ファイルなどはキャビネットなどの施錠が出来る場所に保管し、個人情報の漏洩にならないように努めている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	ご本人の納得のいく説明をし働きかけをしている。ご本人が納得出来るように、決定権を最も尊重するように支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の基本的なリズムも大切になってくるので、基本的な流れの中で、ご利用者のペースや生活歴を大切に支援するようにしている。買い物や散歩、入浴などは特に、ご本人の希望に添えるように努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洗面や整髪、髭剃りはご本人が出来るところはして頂き、出来ないところを手伝っている。更衣する際は、なるべくご本人に選んで頂いている。又、レクリエーションの中において、爪切りを兼ねてマニキュア塗り等も行っていて、お洒落が出来るように支援している。理美容は、2ヶ月に1度くらいに訪問理美容にて全てのご利用者の方がカットや顔剃り等を行っている。		爪以外にも、化粧などの支援も行い、お洒落を楽しんで頂けるように積極的に取り組んでいきたい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作成する際に、好みの物などを聞きながら取り入れている。食事作りは、野菜切りから味付けや盛り付け、配膳まで手伝って頂き、楽しみながら準備を行っている。又、食後の引き膳から皿洗いまでの一連の流れを生活リハビリの一環として、お声かけさせて頂いている。無理なく楽しみながら出来るように支援している。		少しでも多く、食に対する意識や楽しみを持って頂けるように、支援していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒・喫煙をされる方は現在は居ないが、おやつ等は散歩で出かけた時に、好まれる物を選んで頂くように支援している。又、他の嗜好品に関しては、ご本人やご家族の希望により用意するように配慮している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人に合わせた排泄パターンを考慮し、排泄の失敗の無いように気持ちよく排泄できるように支援している。排泄介助は、ご本人のプライドや羞恥心を傷つける事の無い声かけをするように努めている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日は決めていないが、時間帯はいつでも入れるように出来ていない。ご本人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんでいただきたいが、入浴拒否をされる方が数名おられるので、対応を考慮しながら、無理のないように最低でも3日に1度は入れるように、支援している。		全員の方が、進んで気持ちよく入浴できているとは言えない為、楽しんで頂けるように、声かけや環境作りにも十分に配慮していきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間は一定時間ごとの巡視を行い、安全・快適な睡眠を提供できるように努めている。又、安眠を妨げることのないように、環境にも配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で、個人の生活歴にや残存機能を考慮し、趣味・趣向に合わせて計画を立て無理のないように実施している。又、特技だけでなく、新たな楽しみを見出せるように、支援を行っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭所持はトラブルを防ぐ目的で、ご家族と話をしに行っている。ご本煮の希望があれば、ご家族と確認を取り、最低限の金銭所持をしている方もいる。基本的に金銭管理は事務所で行い、買い物希望があれば、立て替えるシステムにしている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に出かけることは多く、個別に出かけたい方が居られる時は、ご家族の了承も得たうえで、時間の許す限り実現できるように支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節ごとの外出は、定期的に計画を立てている。又、ご家族にはご案内をして、出来る限りの参加を募り楽しみを共有出来るように努めている。入居者の方の身体状況にも配慮し、無理なく支援している。		開所して6年が経過し、年中行事を確立しているが、今後は又、違った楽しみを見つけられるように視野を広げ、充実した生活を過ごしていけるように、計画し支援していきたい。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、自由にホームの電話を利用させていただき、出来る限りの要求に応えられるようにしている。又、ご家族にもその都度、報告している。手紙を出したいと言われる方は、現在もホーム内には居られないが、要求に応じて支援していきたいと考えている。		年賀状の支援などを考えてはいるが、実現できていない為、今後レクレーションなどを通して、字の読み書きなどの支援も確立していきたい。なかなか面会に来ることが出来ないご家族との近況報告の手段として、電話を活用できればと、考えている。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方たちの訪問しやすい環境を目指し、常に楽しく、清潔な環境作りには配慮している。特に玄関やリビングなどの入居者の方が常に過ごされる場所は、季節を感じる事が出来て心温かく過ごせるように気をつけている。		月単位で季節ごとのホーム内や外出介助の時の写真を張替え、楽しみを共有している。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の方針で身体拘束の廃止を決めている。行為がないか普段からケアの見つめ直し、気をつけている。止む終えず安全の為、夜間帯のベット柵を付ける行為を必要とするときは、ご家族の同意を得た上で行い、又身体拘束に関して、必要があるかどうかの話し合いを月に1度行い、継続の手続きを行ったり、廃止の方向を決めている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の玄関やリビングの扉は常に自由に出入りできるように開放している。施錠した場合の弊害については、確認の為に再度話し合っていきたい。		スタッフの入れ替わりもあったので、鍵をかけないケアの取り組みと弊害の理解を確認していきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は適正な人員配置をしており、利用者の行動把握は職員同士で常に声を掛け合い、気をつけている。居室に入る際やトイレに入る際にも、プライバシーに配慮しながら必ずノックや挨拶を行い、又入室に関しても、不在であっても一言、声をかけ了解を得てからの入室を心がけている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状態や状況に合わせて、物品の安全性を考慮し、危険性の高いものに関しては、ご家族にも了解を得た中で、優先順位を立ててホーム側で管理を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止に向けて、常日頃から話し合いを行っており、未然に起こり得る事故に関しては、ヒヤリハットなどを活用してリスクを最小限、もしくは、確実に防げるように努めている。又、各職員には情報を伝えるように行っている。		今後も、各職員が気付くと知識を高め、リスク回避に努めていきたい。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時には、マニュアルに基づいて行動できるように、春から職員の入れ替わりもあり、対応が速やかに出来るように、確認していききたい。		緊急時に速やかに対応できるように、きちんとしたマニュアルを作成し、速やかに対応できるように努めていきたい。又、秋には救命講習の時間を確保し、応急処置や初期対応の訓練も兼ねて、定期的に取り組みたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に1度行うようにしている。スタッフの入れ替えにより、避難方法が確実に周知されているとは言い難い。又地域の協力に関しても、日頃からの地域との関わりを大切にすると共に、定期的にお願ひに上がるようにする。避難場所については、全スタッフが常に確認できるように、休憩室に掲示している。		先月、避難訓練を実施したが、参加出来ていないスタッフもいるので、避難方法については、再度確認をして、全スタッフが周知徹底できるように、指導する。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスク管理は常に意識しており、カンファレンスお通して未然に回避出来るように話し合いの場を設け、改善・向上出来るように努め、自立支援と安全と安心の配慮に関しては、ご家族とも話し合うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化に逸早く気付くように、状態の観察や気付きの配慮に努めている。又、毎日の申し送りを通して、少しでも異変を感じた時には、管理者から、かかりつけ医との連携を図り、指示を仰ぎ必要に応じての受診・往診の依頼をしている。その後の結果と対応に関しては、管理日誌に必ず記載し、全スタッフが周知できるようにしている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフの入れ替わりに伴い、服薬に関しては全員が必ずしも把握しているとは、言えない。又、「頓服に関しては、必ず主治医の指示を受け、管理者から確実に指示をしている。		早急に服薬内容と副作用の理解をし、より安全でより確実な服薬介助が出来るように努める。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の管理は、主治医との連携を図り必要に応じて医師の指示を受け、下剤の内服を行っている。又、これに限らず、飲食物にも配慮し、野菜を中心に食物繊維をとり、ヨーグルトなどの乳製品にも気をつけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを徹底し習慣化する事により、誤嚥や感染防止、さらには認知症の進行を遅らせるように努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせた食事形態を考え、栄養のバランスが確保できるように努めている。必要に応じて、刻み食にしたり、お粥なども提供している。又、十分な食事が摂取できていない方には、主治医に相談し経口栄養飲料を処方してもらい、補っている。水分量は、午前と午後で摂取量を確認し、こまめに飲んで頂いている。又、1日のトータル量を記録に残し、把握している。		水分不足にならないように、スタッフ全員で意識を持ち、こまめに水分摂取の声かけを行っている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルがあり、スタッフルームに置いて周知を促している。感染症対策委員会を設置しているが、しっかりと機能しているとは言えない。新たな情報が入った時は管理者を通して、伝達するようにしている。		スタッフの入れ替わりがあり、対策マニュアルの保管場所が周知できていない為、徹底を促し理解するように努める。又、委員会活動がスムーズに出来るように、時間の確保をしていく。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は使用前後に、殺菌消毒を行っている。調理開始は食事時間の1時間半前に開始し、食事は2時間以上の取り置きはしない。又、食材に合わせてまな板を変えている。使用後もまな板、調理器具、布巾の殺菌消毒を必ず行っている。肉魚類の生ものは調理直前に冷蔵庫から取り出している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周辺には観葉植物を置き、ホームの庭には野菜の栽培や花を植えている。玄関内部にも、季節を感じる観葉植物を置いたり、飾りつけを行っている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光などが無いように配慮しているが、話声や周囲の音に敏感な方への配慮が充分でない。食事作りの匂いや花の匂い等、心地よく感じられる環境作りに努め、季節感や生活感を味わって頂けるように支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごしていただけるように、リビングには椅子が配置されており、くつろげる様に配慮している。共有空間の中で独りでゆっくり過ごせる空間の確保は出来ていない。穏やかに、楽しく過ごしていただけるように、壁の画や写真などを月単位で貼りかえるようにしている。		全員で賑やかに過ごせる空間作りには配慮しているが、共有空間の中で、独りでゆっくりとくつろげる空間は他の利用者の方との状況を考えて配慮していきたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものをご自宅より持参して頂き、心地良く過ごせるように努めている。ご本人にとって品物の多さにより、混乱を招いている可能性のあるものに関しては、ご家族に報告・相談し調整する場合もある。		ご本人にとって、住み慣れた環境になるように常に配慮し、ご家族とも連携を取りながら、工夫していきたい。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気をするようにしている。夏場は、外気を定期的に入れる事で、居住空間が寒すぎないように心掛けている。冬場は、風邪などの感染予防も兼ねて、日中は数回の換気を必ず行っている。トイレはこまめに掃除をし換気すると共に、芳香剤を置き気持ちよく利用できるように努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やリビング、トイレ等に手すりを配置し出来る限りの自立支援と安全に配慮に努めている。又、居住空間において、台所や、トイレ内、リビングの床が濡れていないか等、安全と環境整備にも配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来ること、出来ないことの見極めをし、自立支援の妨げにならないように環境作りに努めている。家事活動や、レクレーションを通して混乱や失敗が無いように、個人の残存機能が十分に発揮出来るように声かけ、寄り添い支援している。		スタッフの判断で決め付けずに、その方の可能性や新たな残存機能を見出せるように、常に配慮し努めていきたい。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には花や野菜の苗が絶えることの無いようにしている。又、季節ごとの野菜の苗や花の苗は、ご利用者やご家族と共に植え替えをし、雑草取りや水撒きもスタッフとご利用者とで協力して行っている。過ごしやすい天気の際は、デッキへ出て体操をしたり、談話をしながらのミニ喫茶を開いている。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない